

令和6年度第1回若手医師きらっせプロジェクト推進会議 サマリー

- 1 日時・場所 令和6年7月10日（水）19：00～20：30
神栖市役所分庁舎2階 大会議室
- 2 出席者 32人（委員18人、病院事務局4人、神栖市10人）
※別添名簿のとおり
- 3 会議結果 石田進神栖市長と茨城県立中央病院名誉院長永井秀雄医師の挨拶の後、事務局から出席者を紹介。続いて、永井医師が座長を努め、議事が進行された。事務局による資料説明の後、意見交換を行った。

（まとめ）

○医療機関から申請のあった医師研修事業の選考については、3件全て承認された。

○臨床研修病院の設置に向けた取組みについては、消極的な意見が多く、積極的な意見は少なかった。

※主な意見

- ・ 令和5年度の先進地視察の参加者から「臨床研修病院の指定を受けることは決して不可能でないこと」「病院における教育研修環境の整備が急務であること」などの感想が述べられたとともに、一方で、臨床研修病院の設置にかかるハードルが下がったものの、依然として研修医を受け入れる環境を整備することは難しいとの感想が述べられた。
- ・ 初期研修医ではなく、専門医取得後の医師にターゲットを絞りアプローチしていくなどの戦略を取るべきとの意見もあり。
- ・ 国・県の医師偏在是正対策を踏まえると、臨床研修病院の設置は大変重要であることや、複数の医療機関が力を合わせて施設基準を満たすことが肝要との意見も挙げられた。
- ・ 基幹型の臨床研修病院の指定実現に向けては、個々の医療機関の機運醸成や合意形成が鍵であることが確認できたところ。
 - ・ 行政の立場からは、次を説明。
 - ①国や県の動向を把握できることからこうした情報を伝達する義務があること
具体的には、国が「医師数の需給は均衡すると見込まれるが、地域偏在は解消されないとして、その解決の柱は、地域枠医師であり、キャリア形成支援を通じた受け入れ体制が求められていること」、県議会では、「地域枠医師が鹿行医療圏に行かないのは基幹型の臨床研修病院がないため」と明言している情報を提供

- ②再編統合の調印当事者として、その実現を求め続ける義務があること。協定時に、臨床研修指定病院を目指す旨を調印していること。
- ③企業や市民が求める医療体制整備のために、関係方面に働きかける義務があること。求められているのは、救急・急性期医療体制であり、こうした体制整備のために必要な医師は、臨床研修病院でなければ集めきれないこと。

○令和5年度の熱傷・薬傷症例検討会の開催を受けて、産業医から「企業から市内の受入体制が改善したとの連絡をいただいた」「症例検討会に参加したクリニックから対処方法について問い合わせがあった」「これまでは専門外で受入不可になりがちであった薬傷が、軽症であればきちんと市内で診察してもらえるようになってきた」との感想が述べられた。

○産業医研修会の参加をきっかけに、様々なバックグラウンドを持つ医師が少しずつ神栖市に集まっており、産業医と掛け合わせて外来を担当する医師も増えるなど良い影響が出ていることが確認された。

○看護職合同進学・就職相談会の出席者が少ない現状等を踏まえ、きらっせプロジェクトとして引き続き看護師確保に力を入れていくことを確認した。また、資格を持ちながら働いていない潜在看護師等の看護師確保が重要との意見が挙げられた。

○シンポジウム開催に当たり、きらっせプロジェクトが一丸となって取り組んでいくことをあらためて共有した。また、市内探訪にアテンドしていただく方については、事務局から個別に依頼する旨の連絡があった。

○新任委員からの質問を受けて、事務局からきらっせプロジェクトのねらいについて説明された。

※事務局説明

- ・各医療機関の魅力づくりは個々が主体的に全力で取り組むことが前提
- ・その上で、
 - ①医療機関単独ではなく、他の医療機関や行政と連携した取り組みを行うことで、単独ではできない魅力作りを付加できるのではないか
 - ②行政としても、施策の実効性を確保するために、指導医の方々と協議したり、連携を密にしながら、単独や連携事業への有効な施策案を検討したいこと
 - ③これまでのプロジェクトの取り組みは、①②のように協議を重ねて事業化してきたものであること。さらに、情報発信は、合同で行う方が効果的であり、プロジェクトの柱として取り組んでいること

これらを踏まえ、このプロジェクトの場を積極的に活用いただき、複数の医療機関の連携を促進していただきたいとの思いから、プロジェクトを推進している。

○プロジェクト開始から多くの意見をもとに1つずつ積み上げてきた結果、本年度に予定されている白十字総合病院の病床フルオープンや鹿嶋ハートクリニックの病院化等に市民から期待が集まっていること、今後もベクトルを合わせ、地域の課題に前向きに取り組んでいきたいとの意見を共有した。

令和6年度 第1回 神栖市若手医師きらっせプロジェクト推進会議 委員名簿

日時: 令和6年7月10日(水)
19時00分から

場所: 神栖市役所分庁舎2階
大会議室

○ 委員

	所属等名	役職名	氏名	備考
1	茨城県立中央病院	名誉院長	永井 秀雄	コーディネーター
2	白十字総合病院	副院長兼内科部長	関戸 司久	
3	白十字総合病院	消化器内科部長	赤井 博孝	
4	白十字総合病院	内科	柳町 麻衣美	
5	白十字総合病院	総合診療内科	畑 拓磨	
6	神栖済生会病院	副院長	西 功	
7	神栖済生会病院	内科主任部長	濱田 修平	
8	神栖済生会病院	小児科主任部長	辻脇 篤志	
9	神栖済生会病院	外科主任部長	上田 康二	
10	神栖済生会病院	内科医員	巴 悠記	
11	鹿嶋ハートクリニック	理事長	黄 恬瑩	
12	鹿嶋ハートクリニック	副院長兼ハートリズム・センター長	佐藤 寿俊	
13	鹿嶋ハートクリニック	心臓血管外科センター長	古谷 光久	
14	鹿嶋ハートクリニック	心臓血管外科副センター長	籠島 彰人	
15	神栖産業医トレーニングセンター	統括指導医	田中 完	
16	神栖産業医トレーニングセンター	センター長	林 卓哉	
17	日鉄テックスエンジ(株)東日本支店	産業医	榎元 武	
18	筑波大学	講師	阪本 直人	

○ 随員

	所属等名	役職名	氏名	備考
1	白十字総合病院	事務部長	磯部 晃彦	
2	白十字総合病院	企画課長	池宮 毅	
3	神栖済生会病院	総務課長	宮内 隆史	
4	鹿嶋ハートクリニック法人事業推進本部	事業推進課長	高宮 椰弘	

○ 神栖市

	所属等名	役職名	氏名	備考
1	神栖市	市長	石田 進	
2	神栖市	市長公室長	加瀬 能孝	
3	神栖市	医療対策監	藤枝 昭司	
4	地域医療推進課	課長	吉川 徹	
5	地域医療推進課	課長補佐	徳永 真砂美	
6	地域医療推進課	主査	山澤 翼	
7	地域医療推進課	係長	増田 麻帆	
8	地域医療推進課	主幹	胡田 大介	
9	地域医療推進課	主幹	岩瀬 夏実	
10	地域医療推進課	主幹	荒沼 史昭	